

平成28年度第1回秦野市廃棄物対策審議会概要

1 日 時 平成28年8月1日(月)午後3時～午後4時40分

2 場 所 秦野市役所本庁舎4階議会第1会議室

3 出席者 10名(欠席者4名)

| | |
|---------------------|---------|
| 東海大学 早稲田大学 中央学院大学講師 | 原田 一郎 氏 |
| 東海大学教養学部人間環境学科准教授 | 小栗 和也 氏 |
| 東京地方税理士平塚支部 | 草山 美博 氏 |
| 秦野市商店会連合会 | 中島 正彦 氏 |
| 神奈川県宅地建物取引業協会 | |
| 湘南中支部秦野地区 | 石田 岳志 氏 |
| 秦野市自治会連合会 | 前田 弘和 氏 |
| 秦野市PTA連絡協議会 | 内海 純子 氏 |
| 秦野市食生活改善推進団体 | 古谷 典子 氏 |
| 公募市民 | 大塚 満津子氏 |
| 公募市民 | 松岡 守 氏 |

4 会議概要

(1) 委嘱状の交付

(2) 計画期間について

事務局からの説明

現行計画の目標値と実績に乖離が生じている現状で、より実態に則した実効性のある、ごみ処理量の削減目標を設定する中で、将来的に、はだのクリーンセンターの1施設体制でごみの焼却を行うためには、伊勢原清掃工場90t/日焼却施設の延命期間を定める必要があること、また、平成35年度が期限となる栗原最終処分場の方向性についても、計画期間内に含め、判断する必要があることから、本計画の計画期間を平成29年度から平成43年度までの15年間とすることといたしました。

(3) 秦野市ごみ処理基本計画改定素案における数値目標について

ア 委員からの意見1(資料1)

目標値は、ごみの有料化を考慮しない数値となっていますか。

イ 意見1に対する事務局からの回答

分別の徹底や資源化が可能なものは、まず資源化を図っていき、それ

でも、ごみの減量が進まない場合に、有料化を検討するため、目標値には有料化を考慮した減量は踏まえていません。

ウ 委員からの意見 2（資料 1）

秦野市のごみは、少しずつですが減少傾向にあります。人口の減少のみで、ごみの量を減らすレベルでは間に合わない状況で、そのために施策を打つ必要があります。資源化することによって、どこまで減らせるのか、どこまで減らさなくてはならないかの目標値で、達成すべき客観的基準だと認識してもらいたい。これが達成できない場合には、ごみの有料化も視野に入れなければならないのではないのでしょうか。最初からごみの有料化をするのではなく、やれる事はやった中で、それでも減量できない場合に有料化を考えるとということだと思います。

エ 委員からの意見 3（資料 1）

資料 1 の国の目標値で 12%削減、1 人 1 日当たりのごみ量を 500 グラムとありますが、秦野市は単純に 12%削減をすれば、国の 1 人 1 日当たりのごみ量 500 グラムも達成できるということですか。

オ 意見 3 に対する事務局からの回答

目標値は、1 人 1 日当たりのごみ量を原単位として、人口推計と施策の効果を反映して、総ごみ排出量を設定しています。国の目標値は、方針で参考値であり、今回お示した秦野市の目標値は、現状と人口推計、施策の効果を踏まえて設定しています。

カ 委員からの意見 4（資料 1）

ごみの中でも重たいものは水分を含んでいます。市でも、家庭用生ごみ処理機の取り組みをしていますが、生ごみも水切りをすると、かなり重さも減るので、いかに水切りに対する意識啓発をしていくかが重要だと思います。

キ 委員からの意見 5（資料 1）

分別収集が始まった当時、毎日、順番に収集所に立って、分別のチェックをしていました。その時は分別が良くなりましたが、チェックをやめてしまうと、元に戻ってしまうこともありました。住民に一番伝わりやすい自治会との連携を強化して、分別の徹底を図ることが大事だと思います。

ク 委員からの意見 6（資料 1）

はだのクリーンセンターの処理能力と稼働日数はどれくらいですか。

ケ 意見6に対する事務局からの回答

はだのクリーンセンターの処理能力は合計で日量200トン、稼働日数が280日のため、年間の処理能力は、56,000トンです。そのうち、秦野市分が約60%で、年間33,600トンになります。

コ 委員からの意見7（資料1）

目標では、いつまでに、はだのクリーンセンターのみでの処理体制に移行する予定ですか。

サ 意見7に対する事務局からの回答

目標は、10年後の平成38年度を想定しています。

シ 委員からの意見8（資料1）

秦野市が今後もっと人口を増やしたいと思っている中で、焼却炉を年間280日ではなく、年間300～320日稼働することは可能でしょうか。

ス 意見8に対する事務局からの回答

焼却炉を安定的に長く使用していく点で、はだのクリーンセンターは発電もできる施設になっているため、負荷調整をしながら運転しており、安定的な稼働のためには年間280日は守らなくてはならないと聞いています。

セ 委員からの意見9（資料1）

生ごみの資源化は考えていませんか。

ソ 意見9に対する事務局からの回答

以前の計画の中では、有機物の資源化施設の計画もありましたが、他の事例などを見ても、うまく稼働していないため、施設については難しい状況です。

タ 委員からの意見10（資料1）

原単位の計算で、推計人口で割っているということですが、人口減少を他の施策で抑えようとなった場合に、そういった施策も考慮された人口推計ですか。

チ 意見10に対する事務局からの回答

施策を踏まえたうえでの人口推計となっています。

ツ 委員からの意見11（資料1）

人口構成の中で60歳以上の方が増えていくということですか。

テ 意見 1 1 に対する事務局からの回答

高齢者の割合が増えることとなります。

ト 委員からの意見 1 2 (資料 1・2)

高齢化が進むと、ごみの出し方も変わってくると思います。例えば、組成分析で「紙おむつ 3. 2 %」とありますが、割合がかなり増えると思われるし、コンビニの利用が増え、コンビニのごみが増えることも考えられます。紙おむつの資源化の方向性も念頭に置く必要性が出てくると思います。

ナ 委員からの意見 1 3 (資料 1)

ディスプレイは、生ごみの減量に期待されていると思いますが、補助拡大するなどして、普及を促進させることはできますか。

ニ 意見 1 3 に対する事務局からの回答

補助は、機械に対して上限 4 万円、設置工事費に対して上限 1 万 5 千円ですが、全体の費用が 1 2 万円前後かかってしまうため、なかなか普及しておりません。既存の公共施設や施設の改修時に、ディスプレイが設置できないか検討しています。

ヌ 委員からの意見 1 4 (資料 1)

ディスプレイを設置すると、どのくらいの減量になるのかなど、数値で示せるようお願いしたい。

ネ 意見 1 4 に対する事務局からの回答

過去に、ディスプレイを設置したマンションを対象に検証をしているため、数値として用意します。

ノ 委員からの意見 1 5 (資料 1)

策定から 5 年が経過する平成 3 3 年度で、中間目標値を達成できていなかった場合、施策の見直しをせざるを得ないと思います。ここで目標が達成できない場合は、ごみの有料化も考えていかななくてはならないと思います。

ハ 委員からの意見 1 6 (資料 1)

リサイクル率が上がっていくという推計ですが、何のリサイクルが増えると想定していますか。また、このリサイクル率は焼却前のリサイクル率ですか。

ヒ 意見 1 6 に対する事務局からの回答

現在、はだのクリーンセンターで焼却灰の資源化を開始して資源化率

が上がっています。推計値に関しては、家庭から出る草ごみを資源化することで、平成37年度までに今の半分に減らす、今まで燃やしていたものを資源化することで資源化率が上がることを想定しています。また、推計では、焼却する前の草ごみなどの資源化と焼却後の焼却灰の資源化の両方を踏まえた資源化率となっています。